

# 防災研修会

「災害情報を的確に捉え自分と大切な人の命を守る」  
(山梨学院短期大学)



令和4年5月31日  
甲府市役所地域防災課

**災害は必ず起きます**

自分や自分の大切な人が  
災害で亡くならない為に  
何を行いますか？

こうふPR大使  
武田 ハルくん



災害って何？

# 災害の種類

- 地震



- 風水害



- 土砂災害



- 雪害

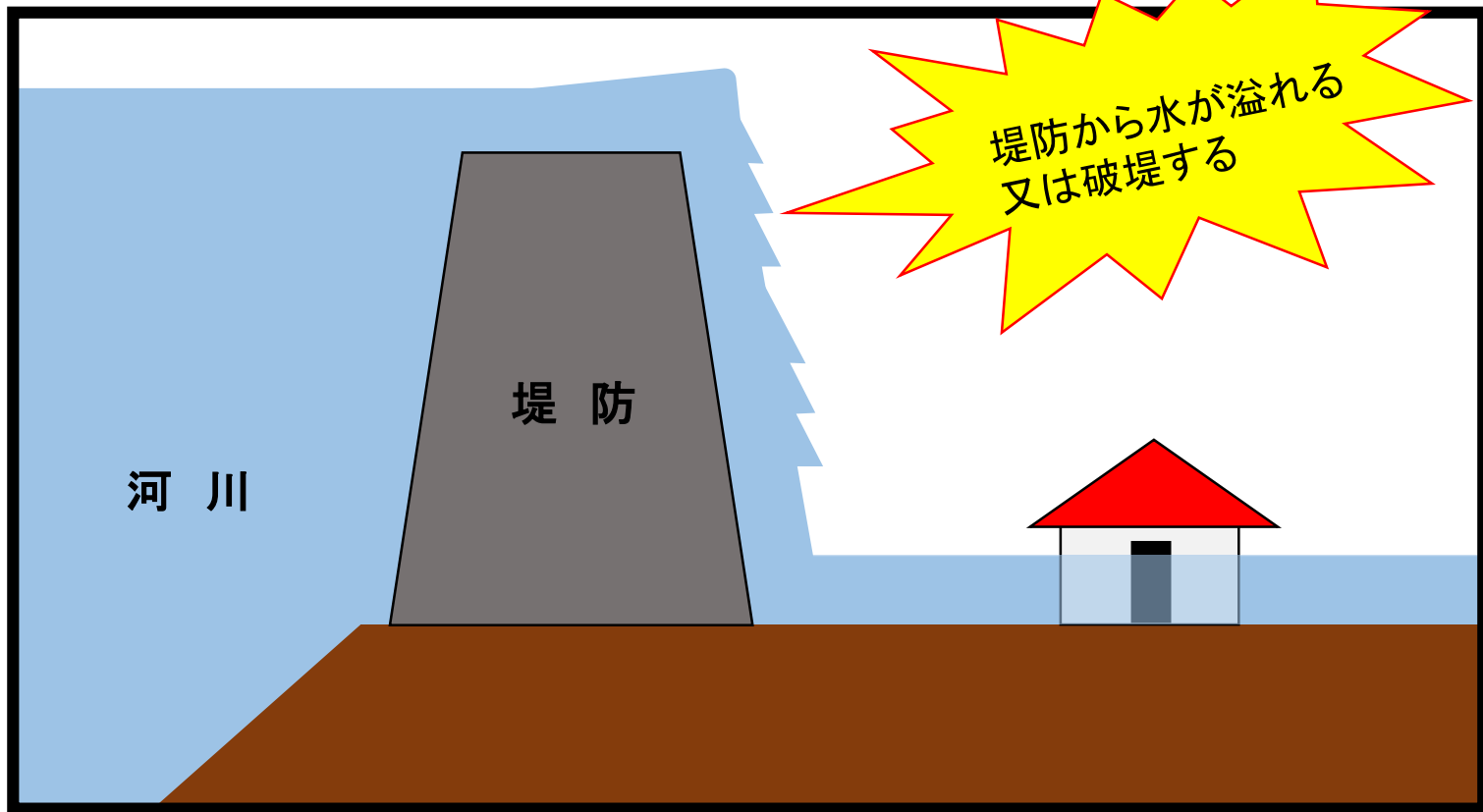


その他 火山の噴火、火災、など



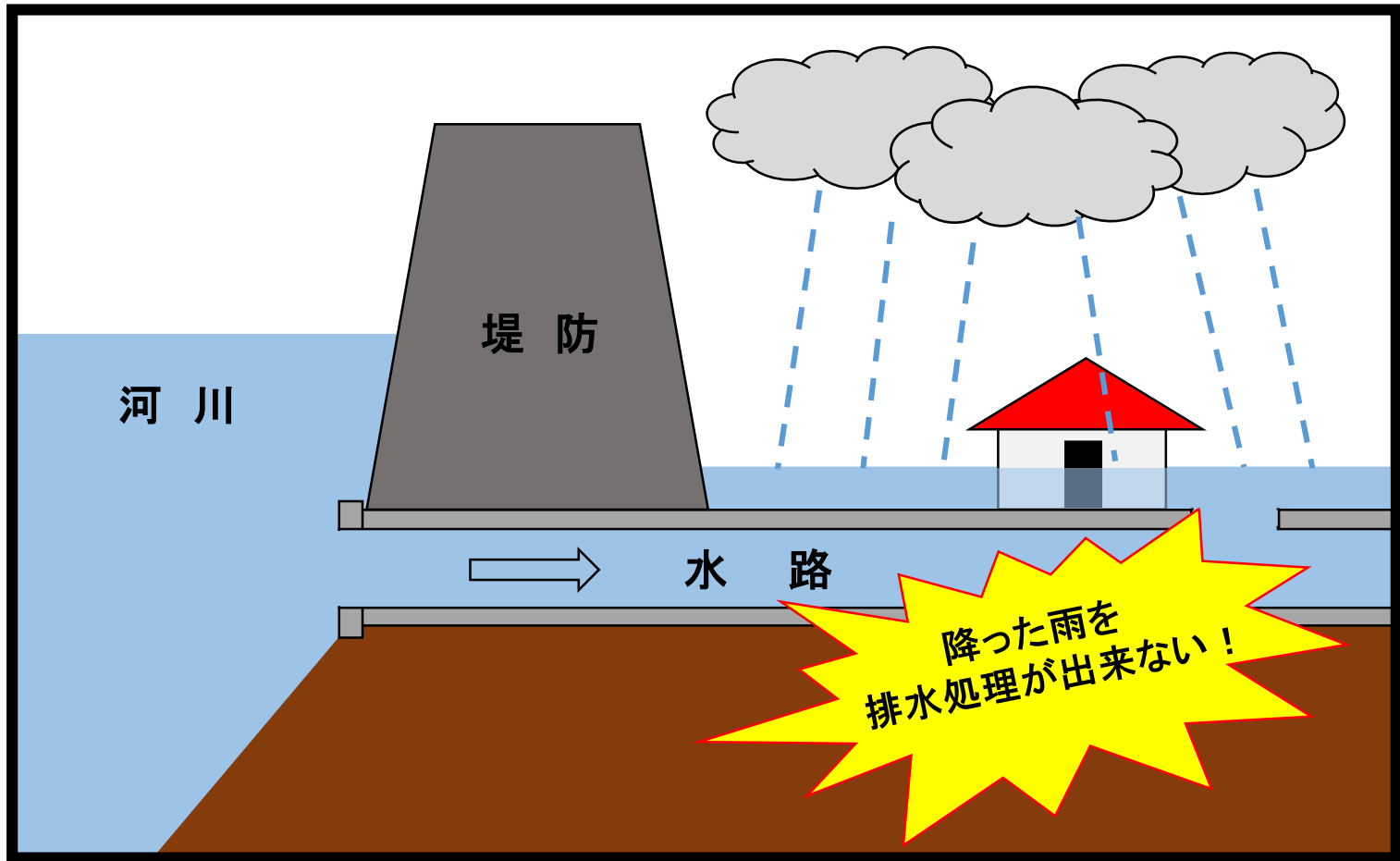
風水害に  
ついて

# 外水氾濫



河川にある水の事を外水と呼びます。  
河川の堤防が氾濫、破堤したときは広範囲に浸水し大災害を発生する恐れがあります。

# 内水氾濫

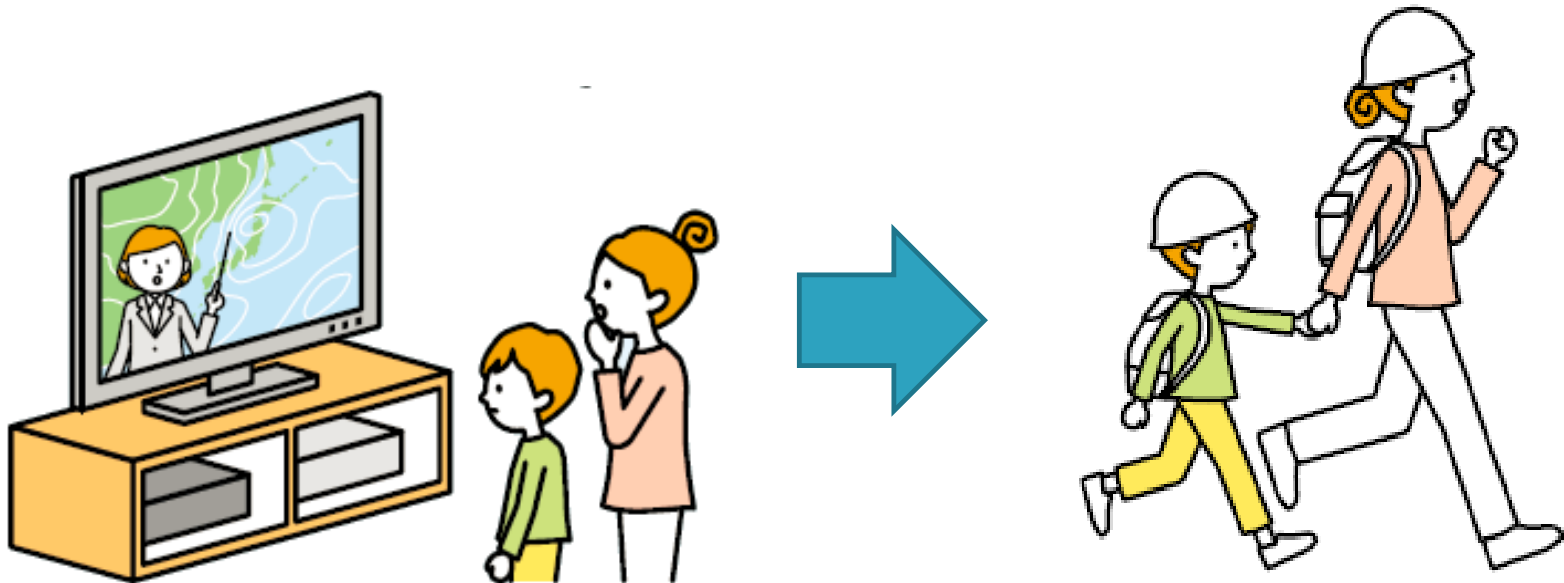


堤防に守られた人が住んでいる場所にある水を内水と呼びます。河川の水位が上昇すると降った雨を排水処理することが出来ません。範囲規模は小さいが、いたる所で発生します。



# 早めの避難

水害時は、気象情報等を収集し、危険を察知した時は、状況に応じた**迅速な避難**をお願いします

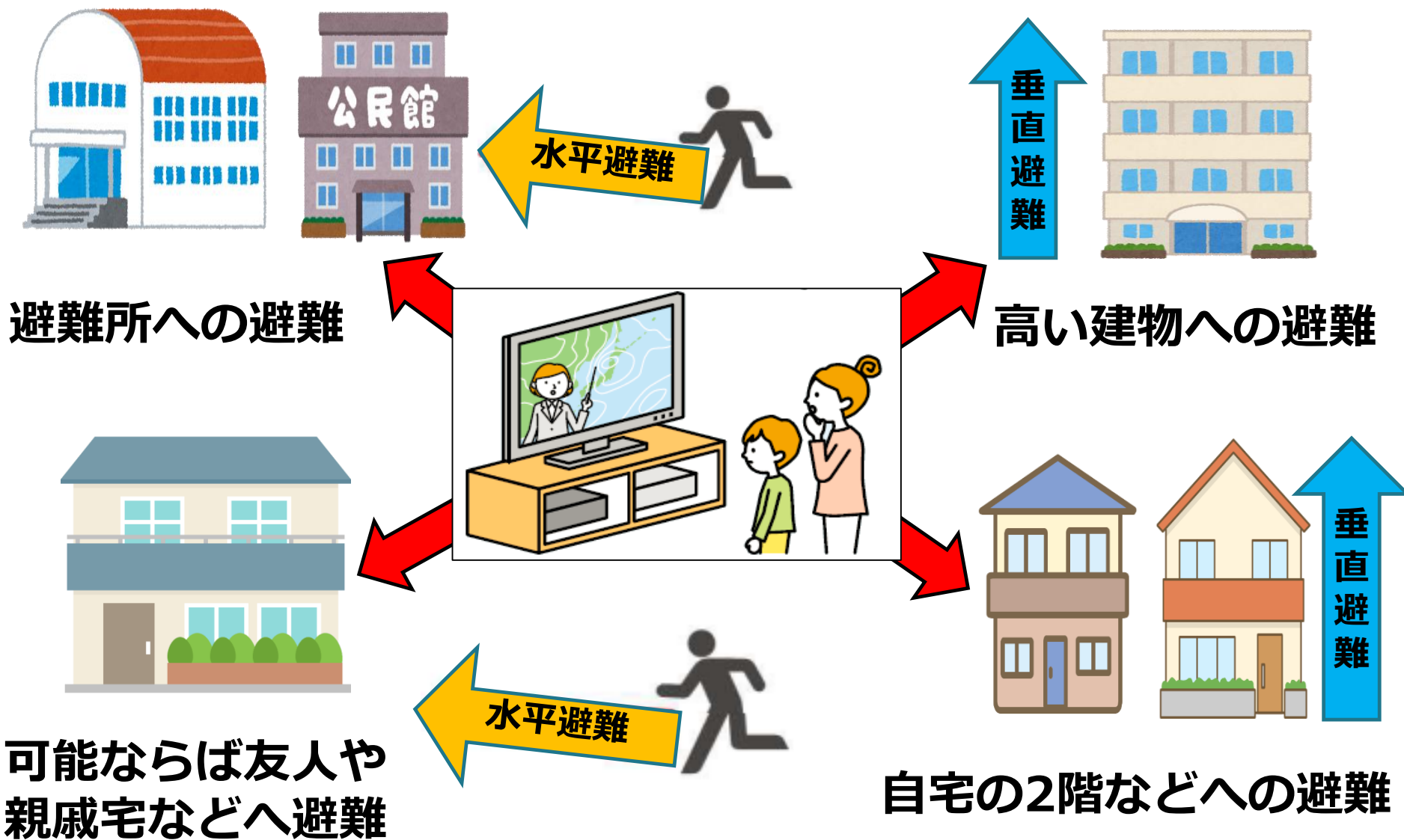


# 警戒レベルの種類と発令時に取るべき行動

**防災情報のポイント** 避難情報・気象情報などの防災情報を、5段階の警戒レベルを用いて伝えることとしました。レベル1・2は気象庁が発表し、レベル3からの避難情報は市が発令します。

警戒レベル	防災情報	状況	避難行動など
5	緊急安全確保	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！
~~<警戒レベル4までに必ず避難！>~~			
4	避難指示	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難
2	洪水注意報・大雨注意報等	気象状況悪化	自らの避難行動を確認する
1	早期注意情報	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める

# 避難の方法（分散避難の例）



# 避難するときの注意点



## ① はきもの

動きやすい運動靴等で避難。替靴を持って避難。



## ② 複数人で避難

近所の人に声をかけ、複数人で避難を。子供とはぐれないよう、ロープなどで結ぶ工夫を。



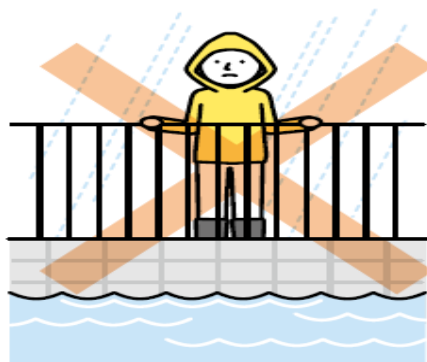
## ③ 歩ける深さ

水深50cm（膝下を目安）を超えると避難は危険に。流れがあると20cmでも危険な場合も。



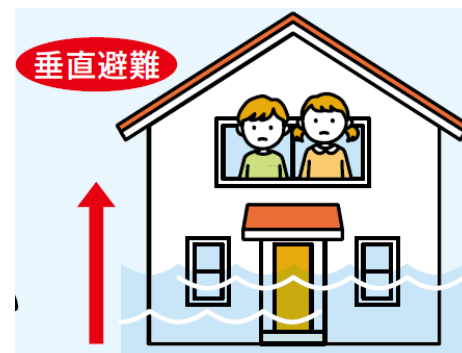
## ④ 足元に注意

マンホールや側溝などは危険が潜んでいます。さぐり棒（カサ等）で足元を確認しながら歩く。



## ⑤ 危険行為の禁止

増水した河川を見に行く等の危険な行為を行わない。



## ⑥ 状況に応じた避難

避難が間に合わない場合は、家の2階など、屋内のより安全な場所に避難する。



土砂災害

について

# 甲府市内の 土砂災害警戒区域数

( ) は特別警戒区域の箇所数

① 崖崩れ	117箇所	(109)
② 土石流	92箇所	(66)
③ 地滑り	9箇所	(0)
合計	218箇所	(175)

## 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

土砂災害が発生した場合に、住民の生命又は財産に**危害が生じるおそれがあると認められる区域**

## 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民の生命又は財産に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域

（特定の開発行為の制限、建築物の構造規制等が行われる。）

# 土砂災害の種類と前兆現象

## ○崖崩れ（急傾斜地の崩壊）

傾斜度が30度以上である土地が崩壊する自然現象



- ・ 崖から小石がぱらぱら落ちる
- ・ 崖から水が湧き出ている
- ・ 崖に割れ目ができる



# ○土石流

山腹が崩壊して生じた土石等又は溪流の土石等が一体となって流下する自然現象



- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる
- 山鳴りがする
- 川が急に濁る
- 流木が混じる

# ○地すべり

土地の一部が地下水等に起因して滑る自然現象又はこれに伴って移動する自然現象



- 地面に亀裂や段差ができる
- 樹木が傾く
- 沢水や井戸水が濁る

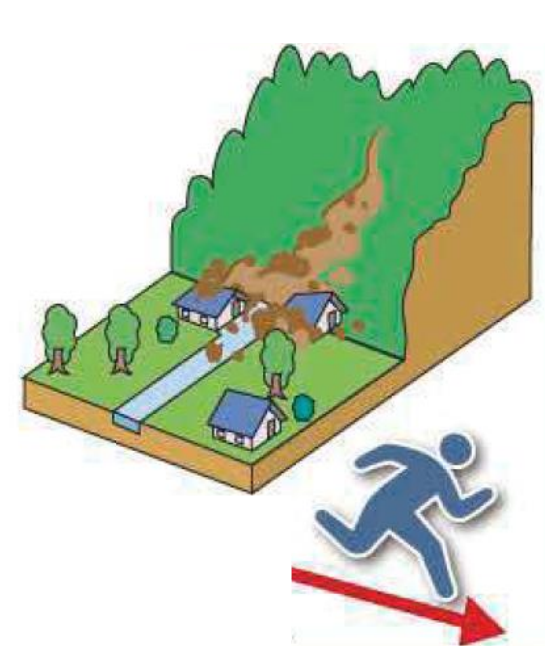
# 土砂災害への対策



- ・状況の把握
- ・情報の収集



- ・警戒区域から  
早めの退避



- ・土石流からは  
垂直に逃げる

こうふPR大使  
武田 ハルくん



さいがい

**災害**から

**身を守るには？**

# 3つの準備

## ① 情報入手する



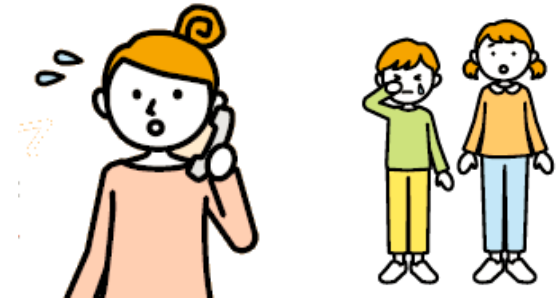
(川の水があふれたらどうなるか・避難地、避難所の確認)

## ② 備蓄



(水や食糧など家に用意しておく)

## ③ 連絡方法の確認



(どこに家族と集まるか  
どうやって家族と連絡を取るか)

① **情報**を入手する

甲府市

# 洪水ハザードマップ

		<p>土石流</p> 	<p>洪水</p> 
		<p>がけ崩れ</p> 	
	<p>屋内安全確保</p> 	<p>情報収集</p> 	
	<p>立退き避難</p> 	<p>非常持ち出し品</p> 	
		<p>自主防災活動</p> 	<p>要配慮者支援</p> 



指定避難所

一時避難所

マークの左側に赤で示している文字  
「2F」、「3F」…各階以上使用可能施設



消 防



危険箇所 (半地下道路)



家屋流失の  
おそれがある区域

最大浸水深

- 10.0m ~ 20.0m 未満
- 5.0m ~ 10.0m 未満
- 3.0m ~ 5.0m 未満
- 0.5m ~ 3.0m 未満
- 0.5m 未満



指定避難所  
一時避難所

マークの左側に赤で示している文字  
「2F」、「3F」…各階以上使用可能施設  
「x」……………使用不可

洪水浸水想定区域外の避難地

医療機関  
(災害拠点病院、災害支援病院)

警察

消防

市役所、支所

水位観測所

危険箇所(半地下道路)

家屋流失の  
おそれがある区域

土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域

最大浸水深

10.0m ~ 20.0m 未満

5.0m ~ 10.0m 未満

3.0m ~ 5.0m 未満

0.5m ~ 3.0m 未満

0.5m 未満



3.かえで支援学校

東光寺2丁目

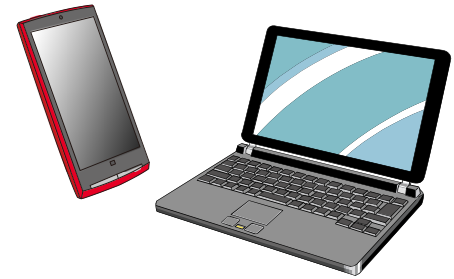
善光寺町

# 避難情報・災害情報の伝達手段

## ・ 防災行政用無線（こちらは、防災甲府です）

聞き逃した場合 → テレホンサービス TEL 298-4471

聞き逃した場合 → 11チャンネル dボタン



## ・ 甲府市防災防犯メールマガジン

防災無線放送内容や災害関連情報をメール送信

## ・ 甲府市防災アプリ（スマホ専用アプリ）

防災に関する情報を配信

## ・ J-アラート（全国瞬時警報システム）

緊急地震速報やミサイル発射情報などを、政府が防災無線を通じて放送



# 甲府市防災アプリ



- ・ 災害、気象情報
- ・ 避難所開設状況
- ・ 安否情報
- ・ 避難場所へのルート
- ・ わが家の防災マニュアル  
電子版

②何を**備蓄**

しますか？

# 非常持ち出し品

**リュック**などに入れ、すぐに持ち出せる場所に保管しましょう

## 食糧・飲料水

食糧は、非常食が便利。  
水は、ペットボトル

## 懐中電灯

1人に1つ、電池も多めに準備



## 携帯ラジオ

予備の電池も多めに準備



## 筆記用具

メモ帳、ボールペン、油性マジックなど



## 生活用品

衣類、タオル、ティッシュ、ビニール袋、軍手、マスク、体温計

## 貴重品

現金、通帳、保険証等などは防犯上別にして、すぐに持ち出せる場所に保管

## 医薬品

薬や包帯、普段服用している処方薬



## その他

眼鏡、携帯電話の充電器などの予備を

# 備蓄品

各家庭において7日間生活ができるよう、食料、飲料水等の備蓄をしましょう。

## 食糧品

非常用食品やレトルト食品、缶詰、など



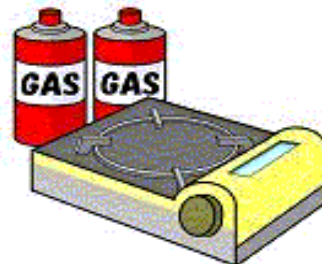
## 水

1人1日  
3ℓを目安に



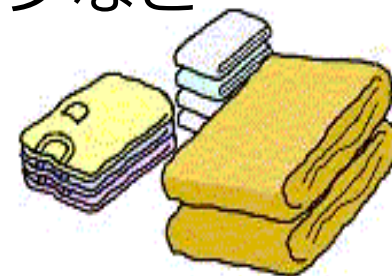
## 卓上コンロ

ボンベは多めに備蓄しておく



## その他

寝袋、テントブルーシート、ゴミ袋、ラップなど



# ③連絡方法の 確認

# 連絡方法の確認

## 家族で話し合みましょう！

- 家族との安否確認の方法や離れ離れになった時の集合場所を決めておきましょう。
- 家族の安否や避難先の伝達手段として、NTT 災害用伝言ダイヤル「**177**」の利用方法
- 避難地、避難所の確認





# NTT 災害用伝言ダイヤル

## 伝言の方法

□□□ にダイヤル  
音声ガイダンスが流れる

録音する場合

1 を押す

音声ガイダンスが流れる

再生する場合

2 を押す

音声ガイダンスが流れる

被災地の人の電話番号

□□□ - □□□□ - □□□□

伝言を入れる

伝言を聞く

# 避難場所

## 集合地（自治会又は組で選定）

発災直後、住民の安否確認や家屋の被害状況等を行うため、自治会や組で選定する空き地や広場、駐車場等のこと。

## 指定避難地（市内に117箇所）

避難した住民の安全確保と、災害情報の伝達等を行うことが可能な公園や学校のグラウンド等のこと。

## 指定避難所（市内に60箇所）

損壊などにより自宅で生活ができなくなった住民を収容する施設。救護や災害復興等、地域の防災拠点となる。

# 「想像する」

ことも大きな備え

